

第64巻・第1号 平成28年1月1日発行

牧草と園藝

今こそ土づくりと自給飼料増産を頑張ろう!

2016年 1月

〈新年号〉



ごあいさつ



皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より弊社事業につきまして、特段のご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、日本の酪農・畜産業界を取り巻く環境は、日豪EPAなどの2国間経済連携協定や大筋合意したTPP（環太平洋パートナーシップ協定）への対応など、更なるグローバル化を求められる大きな転換期を迎えるなか、依然高止まりする飼料価格による高コスト構造や経営者の皆様の高齢化・後継者不足による離農・廃業に歯止めがかからない状況から、生産基盤の脆弱化はもとより地域コミュニティの存続さえ懸念される非常に厳しい環境にあります。一刻も早く海外からの輸入飼料に頼らない国内飼料基盤に立脚した足腰の強い酪農・畜産経営への変革を遂げ、官民一体となって持続可能な農業・地域社会の構築を推し進めなければならないと改めて思う次第です。

弊社は創業者である黒澤西蔵翁が提唱した「健土健民」を企業理念に創業以来一貫して循環型農業を推進しており、平成25年11月には具体的な取り組みとして「株TACSしべちゃ（北海道標茶町）」を立ち上げました。「株TACSしべちゃ」

は、標茶町農業協同組合・標茶町との三者による農業生産法人であり、平成27年4月から生乳生産を始め、年間2,500トンの生乳生産を目標としています。自給飼料の増産と活用を実証するとともに、持続可能な低コスト酪農の経営を目指し、同時に草地管理技術、生産性の向上、新規就農者への研修支援などの課題に取り組み、酪農の振興と地域の活生化に貢献したいと考えております。

足腰の強い酪農・畜産経営とは、「土・草・牛」の循環を通じての経済活動であり、自然に向き合い「いかに円滑に循環させるか」ということに向けた個々の改善への取り組みであると信じています。弊社としましては、引き続き持続型農業・持続型社会の実現に向けた役割を積極的に果たしていかなければならないと考えております。

本年も長年に亘って培ってきた技術やノウハウを活かし、雪印メグミルクグループの一員として、酪農・畜産の生産現場にしっかりと目を向けた数多くの商品と技術を取り揃え、皆様のご用命をお待ちしております。

今後とも、皆様のご健勝と益々のご繁栄を心からご祈念申しあげ、ご挨拶と致します。

健土健民

私たちは、創業者 黒澤西蔵翁の精神
『健土健民』を理想としています。

『健土健民』とは、
健全な土地が健全な食料をもたらし、
健全な食料が健全な人間を形成するという
農業があるべき基本的な姿を表しています。

私たちは、この理想を実現するために、
自然・環境との共生を常に意識して行動します。

平成28年 元旦

雪印種苗株式会社

代表取締役社長 赤石 真人